

令和7年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第1回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第1回 春日山原始林の自然と課題（春日山遊歩道北部～若草山）

実施日：2025年4月27日（日）9:00～14:20

参加者：8名（学部生：5名、外部教職員1名、教職員：杉山、河野）

概要：春日大社から春日山遊歩道～若草山までを歩き、特徴的な自然環境と課題について学び・体験する。

スケジュール	
9:00	春日大社国宝殿前集合・挨拶
9:20	出発、藤棚、龍王社、水谷神社
9:40	春日山遊歩道（北部）を歩きながら解説（ウラシマソウ、ナギ、フジなどの植物、シカの影響と植生保護柵の効果の確認。）
11:00	五感の体操・みみをすます、森で寝転ぶ
11:30	遊歩道を歩きながら解説（ギンリョウソウ、原始林らしい風景、樹形、楠、樹幹の譲り合い）
12:50	若草山山頂・鶯塚古墳からの風景を眺める
13:00	昼食
13:30	若草山山頂出発・二重目からの風景を眺める
14:15	南ゲート・野上神社、地藏菩薩前にて解散

■概要報告

春日山遊歩道の北部コース（水谷神社～若草山山頂）を中心としたフィールドワーク。春日大社境内では、春日山と関連する龍王社、水谷神社の解説において、春日大社と春日山の歴史的背景について解説するとともに、水源地としての位置付けについて解説を行った。また、フジの花が満開だったため、藤棚ではなく木々に絡まりながら登っていく「野生の藤」が印象に残っていたようだ。

春日山遊歩道入り口付近では針葉樹の樹種の違いを葉の手触りや形の違いに注目して観察し、その後の木々や植物についても同様に細かな違いで種類を見分けていることを伝えた。

遊歩道を進みながら、洞の仏頭石、月日磐の史跡の解説を行いつつ、ウラシマソウやギンリョウソウなど、普段あまり目にする機会が少ない植物を中心に解説するとともに、シカの食害による影響についても触れた。ルート前半で情報量が多い解説が続いたため、途中で、五感を使ったアクティビティを行い、森の空気を吸い込んだり、森で寝転ぶなどリラックスする時間も設けた。

ルーペを使って観察する時間においては、興味深くコケやシダなどを見つめて楽しんだ。その後も遊歩道を歩きながら、木々の樹形の特徴や春日山原始林で起きているナラ枯れの現状や、台風等による倒木や土砂崩れなどを見学し若草山山頂駐車場にて、昼食をとった。これまで春日山を歩いた経験のある学生からも「森の見え方が変わった」との声も聞かれた。

若草山からは、春日山から奈良公園一帯への森（緑地）のつながりなどを意識しながら下山した。

■写真



挨拶。今回はすべて男性の参加であった。



森でねころぶ



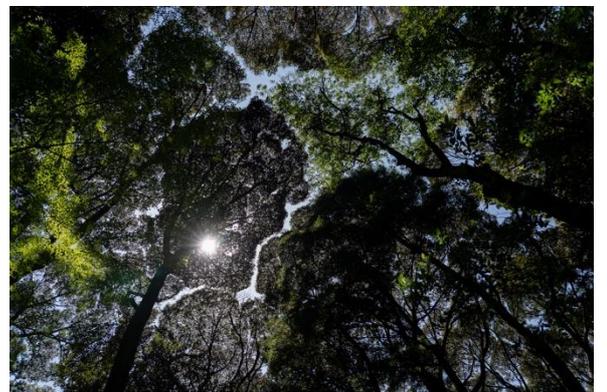
ルーペで観察する。



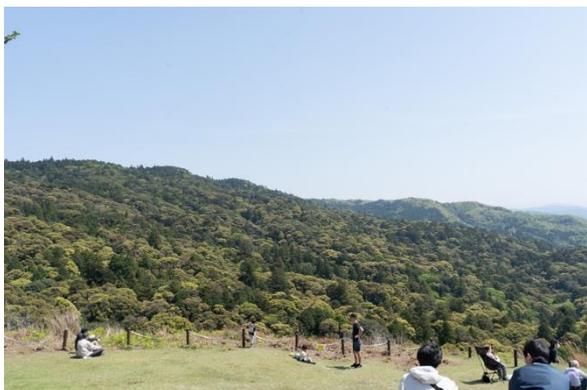
見つけた植物を解説（スマイレの仲間）



ギンリョウソウ



樹冠のゆずりあい



若草山から見た春日山



若草山一重目で集合写真